令和４年度第２回練馬区区政改革推進会議 議事概要

日　　時	令和４年 11 月 14 日(月)　午後６時 30 分～８時 30 分
場　　所	練馬区役所本庁舎５階 庁議室
次　　第	１　開　会 ２　議　題 　　改革ねりまプラン【たたき台】について ３　その他 ４　閉　会
配付資料	資 料「改革ねりまプラン【たたき台】」
出席委員 （名簿記載順 ・敬称略）	庄司　昌彦、沼尾　波子、中田　亘伯留、相澤　愛、上野　美知子、今田　裕子、廣田　政一、西岡　恭史、吉田　美穂子
欠席委員 （敬称略）	なし
区出席者	副区長　小西 將雄 副区長　森田 泰子 教育長　堀 和夫 特別参与　山内 隆夫 企画部長（区政改革担当部長）　佐古田 充宏 総務部長　中田　淳 企画課長　佐川 広 区政改革担当課長　奥野 翔 財政課長　宮原 正量 情報政策課長　小沼 寛幸 人事戦略担当部長（職員課長）　小渕 雅実 区長室長　毛塚 久 教育振興部長　三浦　康彰 広聴広報課長　大木　裕子 人材育成課長　清水　優子 地域振興課長　臼井　素子 協働推進課長　榎本　雄太 生活福祉課長　渡邉　慎 教育振興部副参事　風間　浩也

１　開　会

２　議　題

次第に従いまして、議題に入ります。

資料「改革ねりまプラン【たたき台】」が示されていますので、事務局より説明をお願いします。

【区政改革担当課長】

≪資料「改革ねりまプラン【たたき台】」≫説明

【委員長】

資料について、事務局から説明がありました。柱を一つずつ分けてご議論いただきたいと思います。柱Ⅰ「区民協働の区政を深化させる」について。いかがでしょうか。

【委員】

まず、改革ねりまプランは、最初のページにあるように、区政改革計画策定から流れてきているものなのでしょうか。平成28年10月に区政改革計画があって、そのときに３本の柱がありました。

１番目が協働、２番目が区民サービス向上と持続可能性の両立、３番目が区役所の改革を実行。今回の三つの柱は、それぞれの分野から一つずつ出したということですか。なぜこの三つなのか、という点をご説明いただきたいと思います。

【区政改革担当課長】

なぜ、この三つの柱なのかという点についてですが、７ページに、区を取り巻く状況で、幾つか課題を挙げております。「複雑化する社会課題への対応」にあるように、今後も区民協働による対応はこれまで以上に求められていますし、区としては、区民協働を根幹に施策を進め、充実させてきましたので、区民協働を柱の１番目に持ってきております。

２番目として「新型コロナウイルス感染症の社会生活への影響」で、行政のデジタル化が叫ばれています。区としても、DXを推進するための方針を今年度、来年度にかけて作る考えがございましたので、計画の中にDX推進方針を取り組むということで記載しています。

最後は、人事・人材育成の部分です。区民協働やDXを推進するにあたっては、人事・人材育成についても、新しい考え方や今後の取組を確実に進めるため、記載しております。

ざっくりとした説明で恐縮ですが、以上が三つの柱の説明になります。

【委員】

なぜ、この三つなのかということを、皆さんは疑問に思いますので、冒頭に分かるように説明を加えた方が、より分かりやすくなる印象を持ちました。

【委員】

区民協働を柱に置いているというのは、区民としては心強いというか、嬉しく思います。

私自身、地域の活動が９年目になります。区が本気で協働を進めているのを感じておりますので、何か一緒にやって効果が出たらいいと感じています。

14ページの「地域福祉コーディネーターを配置し、アウトリーチ型の支援につなげます」について。隣の人や周りの人のことを気づけるのは、絶対的に近所の人だと思いますが、図の中に地域の個人が見当たらない気がします。

民生委員や町会・自治会など、分かりやすい名称の方たちが挙げられていますが、私は９年間、地域活動をしていて、こういう方と実際に連携して何かしたことがあったかなというのが正直なところです。もっと個人の気づきや情報をつなげられる場所があるといいと思います。

練馬区は、地域包括が機能していると思います。そういう意味で、私もご相談があったときは、とりあえず地域包括に相談してくださいとか、街かどケアカフェを案内して、問題が解決したこともありました。もっと区民協働とおっしゃるならば、図の中にもう少し現実的なものを考えてほしいと思いました。

【生活福祉課長】

ひきこもりの方や8050問題を抱えた方を早期発見するためには、個人のお宅にアウトリーチ・訪問する必要があります。ただ、訪問対象者の把握が難しいので、地域の皆様方の発見の機能を十分に活かし、情報収集をして、共に訪問するというのが、取組の肝になっています。

図では民生委員や町会・自治会を記載していますが、例えば、今おっしゃっていただいた地域包括支援センターの地域ケア会議などからキャッチアップするやり方も当然に考えられると思います。福祉コーディネーターを積極的に活用して、可能な限り、個人の身近なところから情報収集できるように工夫したいと考えています。

【委員】

アウトリーチは大切ですが、実際に訪問して、ドアを開けてくれる方はどれぐらいいるのか、疑問に感じます。だからこそ、地域住民の力を使えるような仕組みが必要だと思います。実は、私自身、隣の方がとても気になっていますが、どこに相談したらよいか分からない。何かそういうことがあったときに、何かアイディアを出せるような、そういう場を行政が作れば、色々な解決策が出てくるのではないでしょうか。

【生活福祉課長】

地域福祉コーディネーターを取組の中心に据えた背景は、地域福祉コーディネーターが地域の集会などに行き、地域の課題を情報収集しているためです。そこで、さらにアウトリーチにつなげる取組が一番効果的だと考えました。

図の中では、民生委員と町会・自治会という形ですが、よりきめ細かなものが必要だと思います。加えて、集約する仕組み、ここに相談すれば訪問まで繋げられる仕組みにも取り組んでいきたいと思います。

【委員】
　三つの柱を選んだ背景の記載がないことに、驚きましたが、事務局からの説明で、柱の背景について理解ができました。ただ、この三つの柱が有機的に機能し、区の行政改革を成功させる展望が見えません。三つの柱のつながりの説明が必要だと思います。
　また、区民に課題を見つけてもらうのは大事ですが、例えば、区の安全・安心パトロールカーを活用して、区民の悩んでいる課題を見つけ、相談相手になるなど、広くきめ細かいアプローチが必要だと思います。
　その他、スマート商店街について。昨今、スマートシティが非常にポピュラーになっていますので、いいアイディアだと思います。この点について、現在の区の状況を教えてください。

【区政改革担当課長】
　三つの柱を有機的にという点について。取組の柱のレベル感がばらばらで表現が難しいのですが、協働に関して言えば、いわゆる区政運営の大前提になります。DXについては、目的ではなく手段として、区民サービスの向上と業務の効率化を図っていきたい。その二つを実現するための人事体制がどのようにあるべきか、有機的に見せるように工夫したいと思います。
　つぎに、スマート商店街ですが、始まったばかりで、まだ具体的なものがないのですが、例えば、11月～12月でPayPayのポイントキャンペーンは、キャッシュレス化の支援ということで取り組んでいます。

【区長室長】
　安全・安心パトロールカーについて。安全・安心パトロールカーは、警備員２人が乗車して、24時間パトロールしています。加えて、主に町会・自治会の皆様からの貸し出し申請を受けて、町会・自治会の皆さんに一緒に乗ってもらい、地域のパトロールをしています。
　恐らく、委員のご意見は、安全・安心パトロールカーもそうですが、例えば、先ほどの地域包括支援センターであるとか、さまざまな形で、区民の皆様の安全やお悩みを拾っていくべきだというご趣旨だと思います。
　パトロール、地域包括の話も含めて、区民の見守りに取り組んでいる。また、そのことを見せていくことが大事だと思いますので、工夫できるようにしたいと思います。

【委員】
　パトロールの提案をした理由は、昨今のニュースを見ると、現場を取材する傾向が強くなっているためです。なぜ現場が大事かというと、現場に解決の鍵が転がっているためです。区民からの意見を待つのではなく、課題を拾っていく姿勢が大事だと思います。

【委員】
　14ページ「地域福祉コーディネーターを配置し、アウトリーチ型の支援につなげます」について。これまでも、社会福祉協議会で地域福祉コーディネーターが活躍されてきたと

思いますが、「①地域福祉コーディネーターを配置し」というと、新たに配置するように見えますので、違和感があります。また、15ページ「学校を拠点とした新たな地域連携の仕組みを作ります」について。こちらも「新たな地域連携の仕組み」なので、今まであったものを発展させるというイメージだと思いますが、今までなかったものを作ると捉える方もいれば、お子さんがいて、地域連携に参加されたりしていれば分かる方もいらっしゃるので、言葉の使い方を工夫すると良いと感じます。

それから、三つの柱についてですが、柱の太さや大きさ、ボリューム感が同じように記載されているので、分かりにくいように感じました。ただ、最初に「区民協働の区政を深化させる」で、今まで区民協働をやってきて、その成長している姿が見えてきているという表現がありました。今後も区民協働を続けていくことが読み取れたので、ありがたいと思いますし、10年、15年という単位で考えないといけないことを理解して頂いたのだと思います。

【生活福祉課長】

14ページの「地域福祉コーディネーター」は、既存のものですので、表現の仕方に誤解がないように工夫したいと思います。

【教育振興部副参事】

「新たな地域連携の仕組みを作ります」について。今回、国の定める地教行法に定められた学校運営協議会制度を導入した取組を進めるため、このような表現になっています。こちらも既存の仕組みを残しながら、発展させていくことなので、表現を検討させていただきたいと思います。

【委員】

19ページの「SNSを活用したプッシュ型情報発信」について。スマホ利用者は、LINEの利用者が多いので、LINEでの情報発信は良い取組だと思います。

今後、LINEの情報発信について、高齢者の方にも親しめる内容にすることや情報発信の設定を分かりやすくするのが良いと思います。また、SNSを活用した情報発信であれば、可能な限り、多世代にとって分かりやすい形が良いと思います。例えば、スマホ教室の受講者の方に、意見を聞くのも良いと思います。

【広聴広報課長】

LINEについて、10月半ばから新たな登録を開始して、約１か月で3,000人増えています。分かりやすい情報発信の設定方法について、工夫を検討したいと思います。

また、SNSの情報発信では、大学生に意見を聞きました。大学生からは、LINEはインフラであると、また、仲のよい友達とのやり取りは、実はインスタでしていると。それを聞いてきた若い職員は、定期的に聞かないと、若い方たちは情報ツールが変わり、使い方も変わるため、１回聞いて満足はできないと言っております。

さまざまな世代の方のご意見を聞きながら情報発信について工夫をしたいと思います。

【委員】
まず、プランを見て、気になったのは、他の委員の方が発言した３つの柱についてです。
次に、デジタル化に関しては、障害を持っている方が抜け落ちてしまう傾向にあると感じます。今年３月、利用していた携帯がLINEに対応しなくなったため、タブレットを利用していますが、タブレットに関しても、まだまだユーザー補助機能が充実していないように感じます。
健常者の方は、ユーザー補助機能について、軽視している、わかっていないのが実情です。例えば、ユーザー補助機能も、視覚障害者には機能しているものの、上肢障害・言語障害者にはあまり機能していません。ユーザー補助機能は、上肢障害者にとっても、ありがたい存在のはずですが、抜け落ちていて、ふるいにかけられていると痛感させられます。
私たちも勉強会のなかで、どうすればいいのかなど話していますが、課題が多すぎてまとまっていません。デジタル化にあたっては、すべての障害者が抜け落ちないようにしていただきたいと思います。また、常識だと思っている用語も、一般的にはわからない言葉もあり、丁寧な説明が必要だと思います。

【情報政策課長】
27ページ「誰もがデジタルを活用できるように支援します」について。
今後、障害の特性に応じた多様な意思疎通を支援するために、音声で文字を読み上げるアプリやパソコンを視線の動きで操作できるデジタルツールを活用するとともに、デジタルツールの操作方法の支援を充実させていきたいと思います。
また、国も誰一人取り残すことのないDXを掲げていますので、区も同様の方針でDXを推進したいと考えています。

【副委員長】
練馬区の区民協働における「協働」というのは、何の協働なのかが分からなかったというのが率直な感想です。計画策定の段階で区民の意見を聞く、あるいは、区民と一体となって計画を策定する等、それぞれの行政のプロセスの中で、どのように区民の方が入るのかが、具体的に出てきてもいいと思います。
福祉コーディネーターについては、既存の行政施策の中に、情報収集だけ区民の意見を入れる、これを協働と言っていいのでしょうか。例えば、本当に困っている人への対応について、行政と区民が一緒に対応できるか、その仕組みをどのように作るかというところに、ある意味、区民協働の底力が問われるのだと思います。
学校については、新たな連携が示されていますが、例えば、ヤングケアラーや生活困窮している子どもへの対応をどのように足がかりを作るのか、非常に見えにくいです。一定の基準になれば福祉の制度に乗りますが、その前の段階で、さまざまな担い手でどのように支えるのかが協働だと思います。
ぜひ、そういう観点から、協働を明確に位置づけていくことが、大切ではないかと思います。

【生活福祉課長】
福祉コーディネーターについて。福祉につなげるためには、身近な方と一緒に訪問することで関係性を築き、この人の話なら聞いてみようという信頼関係の構築が必要だと思います。そのためには、地域の方々のお力をお借りしながら、施策を推進していくことが何よりも重要だと思いますので、地域の方々のご意見を伺いながら施策を進めていきたいと思います。

【副委員長】
どのようなプロセスで区民参加を意図しているのかが、区民に見える形で打ち出すことが大切だと思います。

【小西副区長】
実は、第２次ビジョンと第３次ビジョンの両方の要素があるなかで、今回のプランで「協働」をどこまで落とし込むのかは、我々の悩みでもありました。その切り分けが分かりづらいというご指摘だと思いますので、表現や分担の仕方を工夫する必要があると思います。いただいたご意見を基に、さらに検討を深めたいと思います。

【区政改革担当課長】
区が目指す区民協働については、グランドデザイン構想の20・21ページにある通り、４つの区の側面支援を通して「地域に根差した区民の自発的な活動が、区内の至るところで活発に行われている」ことを目標としています。
また、今回のプランでは、第２次・第３次ビジョンを踏まえながら、作成した関係で、例示的な見せ方になり、伝わりづらくなったことを反省しております。

【委員】
例えば、16ページの③「新たに「(仮称)ねりま協働ラボ」を実施します」を14ページに移動させるのはいかがでしょうか。その次に、①「地域福祉コーディネーターを配置し、アウトリーチ型の支援につなげます」、②「学校を拠点とした新たな地域連携の仕組みを作ります」につなげるなど、見せ方や流れを工夫すると、より良くなると思います。

【委員長】
続きまして、柱Ⅱ「ＤＸで区政を身近にする」についてご意見を伺いたいと思います。

【委員】
30ページ「町会・自治会の活動をデジタルで活性化します」について。
町会・自治会や管理組合に対するインターネット接続利用料の助成は、デジタル活用支援として有効だと思います。制度を知らない方がいると思いますので、積極的に周知した方がよいと思います。また、町会・自治会のホームページ作成の支援を継続するとともに、町会・自治会以外の地域団体にも同様の支援があると良いと感じます。
次に、デジタルデバイドについて。各敬老館やはつらつセンターなど、区は一生懸命力

を入れていますが、まだまだ足りないと感じます。例えば、練馬区とドコモの介護予防アプリについて。実施目的が、高齢者がスマホに馴染んでもらうためなのか、健康に気をつけてほしいのか、特典の500円商品券の宣伝なのか、分かりにくいと思います。また実際に、ドコモの説明を見ましたが、いきなり難しいワードを使っていたので、受講される方のレベルに合った教え方など、区としても力を入れていただければと感じました。

【協働推進課長】
　インターネット接続の利用料助成について、今後も広く活用していただくように周知をしていきます。併せて、SNSなどのインターネットツールを有効活用していただくために、関連する講座の開催や先進事例をまとめたハンドブックを配布する等、区からもアプローチをしたいと思います。
　また、ホームページの作成支援について。町会・自治会以外の団体に対する支援として、区民協働交流センターで、ホームページの作成支援や情報発信の相談を受けています。引き続き、ニーズを踏まえながら、皆様の支援につながるアドバイス、必要な講座の開催を行いたいと考えます。

【森田副区長】
　介護予防アプリについて。目的は、デジタルツールの活用が、区民の方の健康づくり・介護予防にどの程度寄与するのかを検証するためです。これまでも健康づくりの取組を行ってきましたが、民間企業の力を活用した取組はあまりなかったので、区民の方の健康づくりや介護予防の効果に繋がればと思い、民間企業との共同事業に取り組んでいます。
　改めて、委員からのご意見で、伝え方の問題は大事だと痛感しました。

【委員】
　26ページ「使いやすい区立施設の予約システムを新たに構築します」について。公共施設予約システムの課題について、私自身も痛感していますので、利便性向上に向けた取組が記載されており、安心しました。現状の公共施設予約システムは、どの施設の予約をしているのかわからない、もしくは、予約したい施設にたどり着けないなど、全体像が見えません。
　今後、DXを活用して「“行かない・書かない”デジタル区役所を実現する」ため、どのようなシステムになるのか、半分期待、半分不安という気がしています。利用者からさまざまな意見をヒアリングして、使いやすいシステムになることを期待しています。

【委員】
　柱Ⅱ「ＤＸで区政を身近にする」の取組１の「“行かない・書かない”デジタル区役所を実現する」は「身近にする」に馴染むのですが、取組２の「アナログからデジタルへ業務改革に取り組む」は役所内の話題だと思うので「身近にする」と少し違和感を覚えます。
　ついては、「区政を身近にする」ではなく「ＤＸを推進する」など抽象的な柱書で良いのではないかと感じます。また「身近にする」を残すのであれば、取組２の「アナログからデジタルへ業務改革に取り組む」は柱Ⅲに移動し、集約する方が良いのではないかと感

じました。

【情報政策課長】
　ご指摘のとおり、取組２は内部事務に関係する話題なのですが、区の業務を改革・標準化を進めることによって、区民のサービスにつながる側面があります。引き続き、いただいたご意見も参考にしながら、表現について検討させていただきます。

【委員長】
　続きまして、柱のⅢです。35ページ以降になります。「改革を進める人材を育てる」についてご意見をお伺いしたいと思います。

【委員】
　「改革を進める人材を育てる」について。最近は、人材は財産ということで「人財」と記載することが増えています。それほど人は大事だと認識した上で、どのように育成していくのかが求められているのだと思います。
　ジョブ型によって、全体の業務効率が高まるので、私は賛成です。その上で、行政の中で、どのような分野でジョブ型があるのか、あるいはどのような分野で期待しているのかを教えてください。
　つぎに、人材交流について。外部への派遣、外部からの採用はありますが、外部から区に出向というのが、抜けていると思います。意識的に記載しなかったのでしょうか。その辺りを含めて、総合的に教えてください。

【人事戦略担当部長】
　ジョブ型として、まずはDX分野があるのかなと考えています。能力のある方、経験のある方を、ぜひ外から招聘して、活躍してほしいと思います。ただ、23区の採用は一体でやっていますので、練馬区だけで採用することはできない制度です。来年度から、23区もICT職の採用試験を入れる取組が始まるので、活用していきたいと思います。
　また、行政は、さまざまな分野で非常に複雑化しているので、DXに限らず、例えば福祉の現場やそれ以外の分野についても、ジョブ型という表現が適当かは分かりませんが、専門知識や相当の経験を持った方が活躍できる区政の分野を引き続き研究したいと思います。
　つぎに、外部人材の受入れ方として、弁護士の採用や東京都の管理職を区に派遣をしてもらい、区政改革の一役を担っていただいています。
　具体的に内部人材をどのように活用していくか等については、来年度の人事・人材育成改革プランに記載したいと考えています。

【委員】
　民間の力で組織を活性化させて、効率よい仕事を目指すためにも、特定の弁護士に限らず幅広く人材を活用してもらえればと思います。

【人事戦略担当部長】
　我々としても、組織を活性化したいという思いは強く持っています。方法論として、どのように進めていくかについては、人事・人材育成改革プランの中で検討させていただければと思います。

【委員】
　視点が変わるのですが、人材育成・改革など、前向きな力強い感じがしますが、メンタルヘルスに関する文言がないのが、気になります。メンタルヘルス対策などを入れると、区民として読んだときに安心できますし、そういう優しい行政であってほしいと思います。

【人事戦略担当部長】
　ある意味、言い訳っぽくなるのですが、区民の皆様にお示ししますので、区職員を鍛えて皆様の期待に応えられるようにしますという計画でございます。メンタルヘルスで休む職員はおりますが、仕事だけでなく個人的な事情など、さまざまな理由があります。
　私ども健康管理部門としてフォローをしていると思っていますが、ご意見をいただきましたので、検討させていただければと思います。

【委員長】
　先ほどの外部人材との人事交流について。柱Ｉの区民協働で話のあった、課題の現場にいる方、例えば、NPOやひきこもりの支援をしている方を中に入っていただくのも一つのやり方なのではないかと思いました。

【副委員長】
　区民協働やDXの推進を考えるときに、どのような人材を、どのように登用するのかのプロセスが、もう少し明確になっていると話がつながると思いました。
　例えば、それぞれの部署で行っている事務が全部必要なのか、一から考えて、デジタル化する業務、職員力をつける業務、区民協働する業務など、それぞれの部署が棚卸することが必要だと思います。また、棚卸をする人材をどのように育成していくのか、あるいは、そういう仕組みを作ること等を考えることが大切ではないかと思います。

【区政改革担当課長】
　32ページをご覧いただければと思います。視点がDX寄りになるのですが、「アナログ改革により、生産性向上と業務効率化を進めます」より、全ての業務を可視化する事務処理手順書がございます。今回、DXを進めるに当たって、業務プロセスを見直し（BPR）、デジタルツールの活用を拡げていくことを記載しています。
　そこに、ご意見のあった、協働や人事・人材育成の視点が入ると感じました。具体的な棚卸の方法については、今後研究させていただければと思います。

【副委員長】
　棚卸しにも、幾つかフェーズがあると思いますが、その中の一つとしてデジタル化を行

うのだと思います。そもそも、その業務が必要かという検討も含めて、全体として見えるといいと思います。

【委員】
棚卸しする作業は必要だと思います。さまざまな視点から多角的に評価をすることで、事業の必要性や新しい方向づけが生まれ、改善につながります。評価を含めた棚卸しの作業は重要だと思いますので、いつやるかは別として取り組んでいただきたいと思います。

【委員】
人事について。長年、練馬区に住むなかで、建築やデジタル、まちづくり、福祉などに関する委員会の外部委員になりました。しかし、担当する区職員がコロコロと変わるので、せっかく関係を構築しても、関係を一から作る必要があるのを、どうにかしてほしいと思うことがあります。

【人事戦略担当部長】
組織として人材をどのように育てるのか、さまざまな方法があると思います。例えば、個人的な話をして申し訳ないですが、私は10か所ほどの異動を経て、現在の職場になっています。その中で、６年間、生活保護のケースワーカーをしたことが、今は筋肉というか、骨になっています。
それはなぜかというと、区民の皆さんの生活を直接見て、決して私は区民の皆さんの生活を100%理解できたというつもりは全くないのですが、少なくとも、区民の皆さんの悲しさを、理解させていただいたというのでしょうか、そんな気がしています。
その経験が、いろいろな職場で活きていますし、今は人事戦略担当部長なのですが、職員に対する見方だとか、メンタルになった職員の見方などに、非常に活きています。
委員がおっしゃったように、確かに職員が変わってしまうのは、また同じ話を最初からしなくてはいけない、事情を分かっていない等があると思います。正直、大変申し訳なかったという気持ちです。一方で、こんな私みたいな人間がいることも、ご理解をいただき、そういう経験をした人間が様々な職場を回ることによって、職場を変えたとは思っておりませんけれども、そうした経験を心の中に持ちながら、いろいろな仕事をしていることも大事だと考えています。

【委員長】
恐らく、いろいろな分野で言えることだと思います。例えば、DXを推進するうえでも、コロコロと担当者が変わっていたら一貫した改革はできないこともあります。両方の側面があると思いますので、まさに戦略的に人事をしていただければと思います。
最後に資料全体を通して、感想も含めて、いただければと思います。

【委員】
柱Ⅱ「DXで区政を身近にする」に関連して、感想になりますが、今がまさに、アナログからデジタルに転換する狭間の時代で、アナログ・デジタルを同時に考えなければいけな

い難しい時代だと感じました。同時に、私たちの両親世代もさまざまな困難を乗り越えて、前に進んできたからこそ、現在があるのだと思います。だからこそ、ここで足踏みすることなく、我々も前に進んでいく必要があるのだと感じました。

【委員】
27ページの高齢者スマホ教室について。私は、高齢者の方には、覚えようと思わず、とにかく、楽しみながら触っていくようにと伝えています。今後は、スマホ教室の機会を増やすとともに、スマホを使って楽しめるような場を増やすことが重要だと思います。

【委員】
改革といったときには、取り残されてしまう不安感が生じると思いますので、見捨てないことをあらゆるところで示してほしいと感じました。
また、区民全員が見るものを作るときには、「頑張ります」「一生懸命やります」というのも大事ですが、優しいフォローをする視点も加えていただきたいと感じました。

【委員】
平成28年の区政改革計画は、一つの冊子で、前段や経緯の説明もあるので、理解ができるのですが、今回のプランは、このボリュームだと、説明の工夫が必要だと感じます。
また、先ほどの委員の意見と似ているのですが、改革は必要ですが、厳しいイメージがある言葉だと思います。加えて、６ページの「区を取り巻く環境」では、これが現実なのかもしれないですが、暗いトンネルの中に光が見える状況です。グランドデザインを考えていた頃は、練馬区にいると幸せになれる、夢を語って区政を進めていたと思いますので、ハッピーな将来像になる工夫があった方が良いと思います。

【区政改革担当課長】
区政改革計画を作成したときは、15回程度、区政改革推進会議を開催して、初めて計画を作成しました。今回のプランは、今までやってきたことのプラスアルファを踏まえて、このボリュームになっています。また、区政改革計画は、文字だらけとの指摘を踏まえて、文字を少なめにして作成しました。
６ページの図については、イラストや表現等を工夫させていただきます。なお、来年度は新たなビジョンを策定しますので、その中で明るい未来が描ける政策を打ち出していきたいと思います。

【委員長】
それでは、終了時刻となりましたので、本日の推進会議を終了します。ご参加いただきまして、ありがとうございました。